

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成30年6月14日 (2018.6.14)

【公開番号】特開2017-14193(P2017-14193A)

【公開日】平成29年1月19日 (2017.1.19)

【年通号数】公開・登録公報2017-003

【出願番号】特願2016-122011(P2016-122011)

【国際特許分類】

C 0 7 C 65/28 (2006.01)

C 0 8 G 61/12 (2006.01)

C 0 7 C 69/92 (2006.01)

C 0 7 C 309/42 (2006.01)

C 0 7 C 235/42 (2006.01)

C 0 7 C 69/736 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 C 65/28 C S P

C 0 8 G 61/12

C 0 7 C 69/92

C 0 7 C 309/42

C 0 7 C 235/42

C 0 7 C 69/736

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年4月24日 (2018.4.24)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 4 6 】

本発明のポリマーは、適切な有機溶媒中で、式 (1) の 1 つ以上の第 1 のモノマー、2 つ以上のシクロペンタジエノン部分を有する 1 つ以上の第 2 のモノマー、及び任意に上述される式 (1 3) 及び / または (1 4) の任意のモノマー等の 1 つ以上の追加のモノマーを反応させることによって調製される。全体の第 1 のモノマー (すなわち、アルキン含有モノマー) の全体の第 2 のモノマー (すなわち、2 つのシクロペンタジエノン部分を含有するモノマー) に対するモル比は、1 : 1 . 2 ~ 1 . 9 5 : 1、好ましくは、1 : 1 . 1 5 ~ 1 . 7 5 : 1、より好ましくは、1 : 1 . 1 ~ 1 . 2 : 1 である。任意の第 3 のモノマーが使用される場合、全体の第 3 のモノマーに対する全体の第 1 のモノマーのモル比は、0 . 1 : 1 ~ 1 : 0 . 1、好ましくは、0 . 2 5 : 1 ~ 1 : 0 . 2 5、より好ましくは、0 . 3 : 1 ~ 1 : 0 . 3、さらにより好ましくは、0 . 5 : 1 ~ 1 : 0 . 5、さらにより好ましくは、0 . 4 : 0 . 6 ~ 0 . 7 5 : 0 . 2 5 である。任意の末端キャップモノマーが使用される場合、それは、典型的に、第 2 のモノマーの 1 モルに基づいて、0 . 0 5 ~ 0 . 2 5 モル、好ましくは、0 . 0 7 5 ~ 0 . 2 モル、より好ましくは、0 . 0 9 ~ 0 . 1 2 5 モルの総量で使用される。本オリゴマーを調製するために有用な適切な有機溶媒は、C₂ - 6 アルカンカルボン酸のベンジルエステル、C₂ - 6 アルカンジカルボン酸のジベンジルエステル、C₂ - 6 アルカンカルボン酸のテトラヒドロフルフルルエステル、C₂ - 6 アルカンジカルボン酸のジテトラヒドロフルフルルエステル、C₂ - 6 アルカンカルボン酸のフェネチルエステル、C₂ - 6 アルカンジカルボン酸のジフェネチルエステル、芳香族エーテル、カーボネート、及びラクトンである。好ましい芳香族エーテルは、

ジフェニルエーテル、ジベンジルエーテル、 C_{1-6} アルコキシ置換されたベンゼン、及びベンジル C_{1-6} アルキルエーテル、より好ましくは、 C_{1-4} アルコキシ置換されたベンゼン及びベンジル C_{1-4} アルキルエーテルである。好ましい有機溶媒は、 C_{2-4} アルカンカルボン酸のベンジルエステル、 C_{2-4} アルカンジカルボン酸のジベンジルエステル、 C_{2-4} アルカンカルボン酸のテトラヒドロフルフリルエステル、 C_{2-4} アルカンジカルボン酸のジテトラヒドロフルフリルエステル、 C_{2-4} アルカンカルボン酸のフェネチルエステル、 C_{2-4} アルカンジカルボン酸のジフェネチルエステル、 C_{1-6} アルコキシ置換されたベンゼン、及びベンジル C_{1-6} アルキルエーテル、より好ましくは、 C_{2-6} アルカンカルボン酸のベンジルエステル、 C_{2-6} アルカンカルボン酸のテトラヒドロフルフリルエステル、 C_{2-6} アルカンカルボン酸のフェネチルエステル、 C_{1-4} アルコキシ置換されたベンゼン、ベンジル C_{1-4} アルキルエーテル、ジベンジルエーテル、カーボネート、及びラクトン、さらにより好ましくは、 C_{2-6} アルカンカルボン酸のベンジルエステル、 C_{2-6} アルカンカルボン酸のテトラヒドロフルフリルエステル、 C_{1-4} アルコキシ置換されたベンゼン、ベンジル C_{1-4} アルキルエーテル、カーボネート、及びラクトンである。例示的な有機溶媒は、ベンジルアセテート、ベンジルプロピオナート、テトラヒドロフルフリルアセテート、テトラヒドロフルフリルプロピオナート、テトラヒドロフルフリルブチラート、アニソール、メチルアニソール、ジメチルアニソール、ジメトキシベンゼン、エチルアニソール、エトキシベンゼン、ベンジルメチルエーテル、ベンジリエチルエーテル、及びプロピレンカーボネート、好ましくは、ベンジルアセテート、ベンジルプロピオナート、テトラヒドロフルフリルアセテート、テトラヒドロフルフリルプロピオナート、テトラヒドロフルフリルブチラート、アニソール、メチルアニソール、ジメチルアニソール、ジメトキシベンゼン、エチルアニソール、エトキシベンゼン、プロピレンカーボネート、及びガンマ-ブチロラクトンを含むが、これらに制限されない。